

関市神明町、深川 誠さん(56)

技

刃物 研ぎ

「いかに少ない研ぎで、切れ味を出すか」。春日刃物合資会社代表、深川誠さん。関市神明町は、研磨の技術にこだわりと自信を持つ。持ち手に幾重にも布が巻かれた裁ちばさみ、ガラスを切る特殊なハサミ、明治時代の品……。使い手の思いが伝わる刃物を、回転する紙ヤスリにかける。肉眼では分からない裁ちばさみの

力加減と集中力要求



刃の表面のわずかなへこみ。微妙な力加減と集中力が要求される仕事だ。二十五歳で父親の刃物製造会社を継いだ。安い輸入品に押される業界

で、本格的な研磨業務を始めたのは十二年前。ハサミ作りの経験に裏打ちされた繊細な研ぎが評判を呼び、今では月に二百本近くの注文が入る。「刃物は手になじむ道

具。買い手にも、作り手

のこだわりを知ってほしい」。(太田朗子)

微妙な力のいれ具合で裁ちばさみの刃を研ぐ深川誠さん。関市神明町で